図　画　工　作

目　次

1　図画工作科改訂のポイント ---------- 1
2　図画工作科の目標のポイント ---------- 2
3　図画工作科の内容のポイント ---------- 3
4　第１学年及び第２学年の指導のポイント ---------- 5
5　第３学年及び第４学年の指導のポイント ---------- 6
6　第５学年及び第６学年の指導のポイント ---------- 7
7　図画工作科の指導計画作成と内容の取扱いのポイント --- 8
8　郷土の素材等を活用した指導例 ---------- 11

1　図画工作科改訂のポイント

（1）　改善の基本方針

図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）については、創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむことなどを重視する。

○　子どもの発達の段階に応じて、各学校段階の内容の連続性に配慮し、育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にするとともに、小学校図画工作科、中学校美術科において領域や項目などを通して共通に働く資質や能力を整理し、〔共通事項〕として示す。

○　創造性をはぐくむ造形体験の充実を図りながら、形や色などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と豊かにかかわる態度をはぐくみ、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させるような指導を重視する。

○　よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりするなど、鑑賞の指導を重視する。

○　美術文化の継承と創造への関心を高めるために、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動や、我が国の美術や文化に関する指導を一層充実する。

（2）　図画工作科改訂の要点

【目標の改善】

教科の目標では、「感性を働かせながら」を加え、児童が、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を育成することを一層重視する。学年の目標では、造形への関心や意欲、態度、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力などの育てたい資質や能力をより明確に示す。

【内容の改善】

ア　表現領域の内容構成の改善

「A表現」の内容を「(1) 材料を基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。」、「(2) 表したいことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。」とし、内容を発想や構想の能力と創造的な技能の観点から整理する。

イ　鑑賞領域の内容構成の改善

「B鑑賞」を「(1) 作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。」として、鑑賞の能力や言語活動の観点から整理して示す。

－ 図1 －

ウ　〔共通事項〕の新設

表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要となる資質や能力を〔共通事項〕として示す。指導において、自分の感覚や活動を通して形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これを基に自分のイメージをもつことが十分に行われるようにする。

エ　言語活動の充実

「Ｂ鑑賞」の各学年の内容に「話したり、聞いたりする」、「話し合ったりする」などの学習活動を位置付け、言語活動を充実する。

オ　材料や用具の取扱いや鑑賞指導における美術館等との連携

内容の取扱いに、各学年で取り扱う材料や用具を、手などを十分に働かせるなどの指導の配慮事項とともに示す。鑑賞については、児童や学校の実態に応じて、美術館などを利用したり、連携を図ったりすることなどに配慮する。

２　図画工作科の目標のポイント

（１）　教科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

○　教科の目標は、児童自身に本来備わっている資質や能力を一層伸ばし、児童が自らつくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、生活や社会と主体的にかかわる態度を育て、豊かな情操を養う観点に立っている。

「感性を働かせながら」は、今回新たに加えられた文言である。表現及び鑑賞の活動において、児童の感覚や感じ方などを一層重視することを明確にするために示されている。

（２）　学年の目標

学年の目標は、教科の目標を受け、児童の表現や鑑賞の特性を考慮し、その実現を図るための具体的な目標である。

○　学校や児童の実態などに応じ、弾力的な指導を重視する観点から、第１学年及び第２学年(低学年)、第３学年及び第４学年(中学年)、第５学年及び第６学年(高学年)の複数学年にまとめて示している。

各学年においては、２学年間を見通し、学年間の関連を図るとともに、１年間に必要な経験などを配慮しながら、それぞれの学年にふさわしい内容を選択して指導計画を作成し、目標の実現を目指すことになる。

○　学年の目標は、(1)～(3)の３点にまとめて示されている。(1)の目標は、(2)と(3)の目標のそれぞれに関連している。また、(2)と(3)の目標は互いに働き合う。目標の実現に当たっては、それぞれを相互に関連させながら児童の資質や能力の育成を図る必要がある。

(1)　造形への関心や意欲、態度に関する目標
- 進んで表したり見たりする態度を育て、つくりだす喜びを味わう。(低学年)
- 進んで表現や鑑賞をする態度を育て、つくりだす喜びを味わう。(中学年)
- 創造的に表現や鑑賞をする態度を育て、つくりだす喜びを味わう。(高学年)

(2)　発想や構想の能力、創造的な技能に関する目標
- 豊かな発想をし、体全体の感覚や技能などを働かせる。(低学年)
- 豊かな発想をし、手や体全体を十分働かせ、表し方を工夫する。(中学年)
- 想像力を働かせて発想や構想をし、様々な表し方を工夫する。(高学年)

(3)　鑑賞の能力に関する目標
- 身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取る。(低学年)
- 身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取る。(中学年)
- 親しみのある作品などから、よさや美しさを感じ取る。(高学年)

３　図画工作科の内容のポイント

（１）　内容の構成

○　内容は、「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」及び〔共通事項〕で構成している。

○　学校や一人一人の児童の実態に応じ、様々な表現に対応した弾力的な指導を重視する観点から、内容を２学年まとめて示している。

（２）　「Ａ表現」の内容

○　「Ａ表現」は、児童が進んで形や色、材料などにかかわりながら、かいたりつくったりする造形活動を通して、発想や構想の能力、創造的な技能を高めるものである。造形活動は、(1)と(2)の二つに分けてとらえることができる。

Ａ表現	(1)材料を基に造形遊びをする	○　材料やその形や色などに働きかけることから始まる側面 ・身近にある自然物や人工の材料、その形や色の特徴などから思い付いた造形活動を行うもの。
	(2)表したいことを絵や立体、工作に表す	○　自分の表したいことを基に、これを実現していこうとする側面 ・感じたこと、想像したこと、見たことなどから児童が表したいことを絵や立体、工作に表すもの。

－ 図3 －

「材料を基に造形遊びをする」は、結果的に作品になることもあるが、始めから作品をつくることを目的にしないのに対して、「表したいことを絵や立体、工作に表す」はおおよそテーマや目的を基に作品をつくろうとすることから始まる。

「材料を基に造形遊びをする」と「表したいことを絵や立体、工作に表す」は、二つの側面から児童の資質や能力を育てようとするものであり、これらの活動を通して発想や構想の能力、創造的な技能などを育てることになる。それぞれの活動の特性を生かしながら指導を工夫する必要がある。その際、児童が表現をしながら常に鑑賞の能力を働かせていることに配慮する必要がある。

○　「Ａ表現」(1)、(2)は次のように改訂されている。

	平成10年版	平成20年版
Ａ表現(1)	「材料などを基にした楽しい造形活動（通称造形遊び)」 ⇨	「材料を基に造形遊びをする」
Ａ表現(2)	「絵や立体に表したり、つくりたいものをつくることや工作に表すこと」 ⇨	「表したいことを絵や立体、工作に表す」

これまでＡ表現(2)について、低学年及び中学年で「つくりたいものをつくる」、高学年で「工作に表す」と示されていたが、どちらも児童が自分の表したいことを表現するという意味であったため、今回「工作に表す」とまとめて示されている。

（３）　「Ｂ鑑賞」の内容

○　「Ｂ鑑賞」は、児童が自分の感覚や体験などを基に、自分たちの作品や親しみのある美術作品などを見たり、それについて話したりする鑑賞活動を通して、鑑賞の能力を高めるものである。

児童は対象から感じた形や色、イメージなどを基に、主体的によさや美しさなどを感じ取ったり、自分なりの意味をつくりだしたりする活動を行っている。
表現と鑑賞は相互に関連して働き合うものとしてとらえ、鑑賞の活動や作品などの対象を幅広く考える必要がある。

（４）　〔共通事項〕の内容

○　〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の活動の中で、共通に働いている資質や能力であり、造形活動や鑑賞活動を豊かにするための指導事項として示している。

ア　児童が自らの感覚や活動を通して形や色をとらえること

イ　児童が自分のイメージをもつこと

指導に当たっては、〔共通事項〕が表現や鑑賞の領域や活動などの全体にかかわる事項であることを踏まえて、これまで行われてきた指導内容や方法を〔共通事項〕の視点で検討し、改善することが重要である。

〔共通事項〕は、〔共通事項〕だけを題材にしたり、どの時間でも〔共通事項〕を教えてから授業を始めたりするなどの硬直的な指導を意図したものではない。
児童が普段の生活で発揮している資質や能力であり、形や色などを活用してコミュニケーションを行う児童の姿としてあらわれることに配慮しながら、指導を具体化することが必要である。

4　第１学年及び第２学年の指導のポイント

1 目 標		(1) 進んで表したり見たりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。 (2) 造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。 (3) 身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取るようにする。
2 内 容	A 表 現	(1) 材料を基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。 ア　身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。 イ　感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること。 ウ　並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること。
		(2) 感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。 ア　感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。 イ　好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。 ウ　身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。
	B 鑑 賞	(1) 身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。 ア　自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見ること。 イ　感じたことを話したり、友人の話を聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと。
共通 事項		(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。 ア　自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。 イ　形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

○　造形遊びにおける「身近な自然物や人工の材料」は、この時期の児童が関心や意欲をもち、扱いやすい身近な材料を示している。また、人工の材料の中で、クレヨン、パス、共用の絵の具などは、用具でもあるが形や色をもつ材料の一つとして考えることができる。

○　絵や立体、工作に表す活動において、児童が自分の方法で思いのままに表す過程を楽しめるようにするために、いろいろな表し方を体験させるようにすることが考えられる。表したいものの形や順序などを細かく決め過ぎると、児童の発想や構想の能力、創造的な技

能などが発揮されない場合があるので配慮する必要がある。また、児童の発想を広げるために、いろいろな形や大きさの紙を用意する、線だけでかく、かたまりからつくり始める、仕組みや用具だけを提示するなど、いろいろな題材の工夫が考えられる。

○　鑑賞の活動において、体全体で感じ取るという低学年の特性を生かして、作品と同じ姿勢をとる、作品に触れるなど、見ることそのものを楽しむような鑑賞活動が考えられる。また、造形活動においては、児童が何かつぶやいたり、自分の作品をじっと見つめたりするなどの鑑賞の能力が自然に表れている姿に着目することが重要である。

５　第３学年及び第４学年の指導のポイント

１ 目 標		(1) 進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。 (2) 材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。 (3) 身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取るようにする。
２ 内 容	Ａ 表 現	(1) 材料や場所などを基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。 ア　身近な材料や場所などを基に発想してつくること。 イ　新しい形をつくるとともに、その形から発想したりみんなで話し合って考えたりしながらつくること。 ウ　前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどしてつくること。
		(2) 感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。 ア　感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けて表すこと。 イ　表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと。 ウ　表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。
	Ｂ 鑑 賞	(1) 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。 ア　自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。 イ　感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること。
共通 事項		(1)「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。 ア　自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること。 イ　形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

○　造形遊びにおける「身近な材料や場所など」は、この時期の児童の活動の広がりに応じたもので、児童の生活圏内にあり活用が容易な材料や場所などを示している。指導に当たっては、材料と場所を分けてとらえるのではなく、材料から場所を考えたり、活動する場所にある材料を活用したりするなど、児童がいろいろ試みる中で発想が広がるような指導

－ 図6 －

を工夫する必要がある。

○　絵や立体、工作に表す活動において、「見たこと」は、見ることに関心をもちながら表すことができるようになる中学年の児童の発達に応じて示している。児童自身が見たり触れたりしたことからとらえたことで、例えば、自分の興味のある部分、自分なりにとらえた形や色、ものの重なりなどが考えられる。

○　共同製作で自分たちの表現をよりよくしようと話し合う活動なども、鑑賞活動としてとらえることができる。このような製作途中の姿を写真やビデオなどで撮影し評価や児童の鑑賞活動に用いる方法も考えられる。

６　第５学年及び第６学年の指導のポイント

<table>
<tr><td>１
目
標</td><td colspan="2">(1) 創造的に表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。
(2) 材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする。
(3) 親しみのある作品などから、よさや美しさを感じ取るとともに、それらを大切にするようにする。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">２
内
容</td><td rowspan="2">A
表
現</td><td>(1) 材料や場所などの特徴を基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。
ア　材料や場所などの特徴を基に発想し想像力を働かせてつくること。
イ　材料や場所などに進んでかかわり合い、それらを基に構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながらつくること。
ウ　前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしてつくること。</td></tr>
<tr><td>(2) 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。
ア　感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けて表すこと。
イ　形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すこと。
ウ　表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせて表すこと。</td></tr>
<tr><td>B
鑑
賞</td><td>(1) 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。
ア　自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。
イ　感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。</td></tr>
<tr><td colspan="2">共通
事項</td><td>(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。
ア　自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。
イ　形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。</td></tr>
</table>

○　造形遊びにおける「材料や場所などの特徴を基に」とは、この時期の児童の活動や意識の広がりに応じたもので、材料や場所などの具体的な特徴をとらえることを示している。

－ 図7 －

特徴とは、形や色、質感などだけでなく、切ることや組み立てることができるといった材料の性質、光や風などの自然の環境、人の動きなど、場所の様子などを含むものである。

○　絵や立体、工作に表す活動において、児童自身が材料や用具を活用しながらその効果や可能性に気付いたり、そこから発想を広げたりできるような指導を工夫する必要がある。また、高学年では自分なりの見通しをもつことで表現の質を高めることができるようになるので構想を具体的にする手立ても重要である。ただし、その方法については、児童の実態に応じて柔軟に考える必要がある。

○　鑑賞の活動において、工芸品などを実際に使って確かめたり、置き場所を考えたりするなど、児童一人一人が実感的に鑑賞の能力を働かせることができるような手立てを工夫することが考えられる。児童自身が自他の作品について語ったり、適切な人数で話し合ったり、ゲーム的な活動をしたりするなど、他者との交流を重視した活動を取り入れることも重要である。伝統と文化に関する学習については、自分たちのよさを再発見するような視点で行い、これを大切にしたり、芸術や自然の美しさを味わったりする態度の基礎を育成することが重要である。

7　図画工作科の指導計画作成と内容の取扱いのポイント

指導計画の作成と内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮することが大切である。

（1）　〔共通事項〕の指導について

各学年の内容の〔共通事項〕は表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要となるものであり、表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われるよう工夫すること。

○　中学校美術科においても〔共通事項〕が示されており、小学校図画工作科と中学校美術科において一貫して育てることに配慮する必要がある。

（2）　「Ａ表現」(2)の指導に配当する授業時数について

各学年の内容の「Ａ表現」の(2)の指導に配当する授業時数については、工作に表すことの内容に配当する授業時数が、絵や立体に表すことの内容に配当する授業時数とおよそ等しくなるように計画すること。

○　工作に表すことの内容については、小学校図画工作科が中学校技術・家庭科（技術分野）と関連する教科であることに配慮する必要がある。

（3）　「Ｂ鑑賞」の指導について

各学年の内容の「Ｂ鑑賞」の指導については、「Ａ表現」との関連を図るようにすること。ただし、指導の効果を高めるため必要がある場合には、児童や学校の実態に応じて、独立して

行うようにすること。

（４） 適宜共同してつくりだす活動を取り上げることについて

各学年の内容の「Ａ表現」の指導については、適宜共同してつくりだす活動を取り上げるようにすること。

（５） 生活科など他教科等や幼稚園教育との関連を図ることについて

低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第１学年においては、幼稚園教育における表現に関する内容などとの関連を考慮すること。

（６） 道徳の時間などとの関連について

第１章総則の第１の２及び第３章道徳の第１に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第３章道徳の第２に示す内容について、図画工作科の特質に応じて適切な指導をすること。

図画工作科で扱った内容や教材の中で適切なものを、道徳の時間に活用することが効果的な場合もある。また、道徳の時間に取り上げたことに関係のある内容や教材を図画工作科で扱う場合には、道徳の時間における指導の成果を生かすように工夫することも考えられる。

（７） 個々の児童の特性を生かした内容の取扱いについて

個々の児童が特性を生かした活動ができるようにするため、学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにすること。

「学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにする」とは、表現や鑑賞を幅広くとらえ、児童が経験したことを基に、自分に適した表現方法や材料、用具などを選ぶことができるようにすることを示している。

（８） 版に表す経験や土を焼成して表す経験ができるようにすることについて

各学年の「Ａ表現」の(2)については、児童や学校の実態に応じて、児童が工夫して楽しめる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにすること。

○　地域によっては伝統と文化に関する学習と関連させることが考えられる。

（９） 材料や用具について

材料や用具については、次のとおり取り扱うこととし、必要に応じて、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりすること。

学　年	材料や用具	取扱い上の留意点
第１・２学年	土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、	十分に慣れる

	のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいもの	
第３・４学年	木切れ、板材、釘（くぎ）、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなど	適切に扱う
第５・６学年	針金、糸のこぎりなど	表現方法に応じて活用する

「金づち」は、今回新たに加えられたもので、釘を木切れに打ち込んで表現したり、板材と板材とを釘でつないだりするときに使用する用具として示されている。

（１０） 事故防止について

事故防止に留意すること。

○　材料や用具については、安全な扱い方について指導することが重要である。
　教員の一方的な説明で終わるのでなく、実際に取り扱うなどして、児童が実感的に理解することが必要である。

○　活動場所については、事前の点検が必要である。
　安全や衛生面を確認する必要がある。

（１１） 地域の美術館などの利用や連携について

各学年の「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること。

○　利用においては、児童の鑑賞の能力を育てる目的で行うようにするとともに、児童一人一人が能動的な鑑賞ができるように配慮する必要がある。

○　美術館などの施設が提供する教材や教育プログラムを活用する、学芸員などの専門的な経験や知識を生かして授業をするなど、多様な取組が考えられる。

（１２）作品の展示について

校内の適切な場所に作品を展示するなどし、平素の学校生活においてそれを鑑賞できるよう配慮するものとする。

○　展示の場所や方法については、掲示板だけでなく、踊り場の隅、壁やフェンス、廊下の上部の空間を生かすなどが考えられる。

８　郷土の素材等を活用した指導例

第１学年

１　題材名　　『つめて　つないで』　＜Ａ表現(1)・Ｂ鑑賞＞

２　題材について

低学年の児童は、身近にある材料を基に自由に発想し、興味・関心をもって遊びを発展させていく。そういった児童の造形表現への思いを生かして、本題材では身近にある材料を形や色を基に思いのままに変化させ、好きなものをつくりだす活動を設定した。一人一人の発想を大切に、児童がつくりながら発見し、また、つくり続けていく活動を展開したいと考えた。そこで、思いをふくらませる活動の時間を十分に確保し、自分なりのイメージを広げるようにしたり、活動中に交流する機会を設定することで感性を刺激し合ったりする。そして、形や色をもとに発想したことをイメージ化し、自由につくり続ける活動を展開したい。

３　目　標

○　つめたりつないだりしてできる形や色から発想したものをつくりだすことを楽しむ。

○　つめたりつないだりしてできる形や色の面白さを感じ取り、つなぎ方や並べ方を工夫して発想したものをつくりだす。

○　友達と共同でつくりだす喜びを感じたり、互いのつくったものを見合ったりして、よさや面白さを感じる。

４　共通事項

ア　自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。

材料の形や色、大きさや手触り等を感じる活動を十分に取り入れる。また、つめたりつないだりしながらどのようなものができるかを考え、楽しんで活動ができるようにする。

イ　形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

つめた形から想像したり、シールやモール等の材料の使い方を工夫したりして、さらに思い付いたものをつくりだすようにし、思いが具体的になるようにする。また、活動中に交流する時間をもったり自分の好きな場所に飾ったりすることにより、よさや面白さを感じるとともに友達の表現したものを見て楽しみ、イメージが広がるようにする。

５　指導計画（全２時間）

（1）材料と自由にかかわり、つめたりつないだりしながら思い付いたことを試す。・１時間

（2）様々な技法を使ってつなぎ方を考えたり思いのままにつくり続けたりすることを楽しみ、自分の好きな場所に置いたりつり下げたりして活動を楽しむ。・・・・・・・・・・１時間

６　準備物

児　童：透明のビニル袋、ひも、はさみ

指導者：かさ袋、スズランテープ、シール、モール、両面テープ、セロハンテープ

－ 図11 －

7　指導の展開

時間	活動の流れ	指導上の留意点
2	○　かさ袋やビニル袋などに、好きな色のスズランテープを思いのままにつめる。	・やってみたいという思いをもつように題材名の提案の仕方を工夫する。 ・用意した材料を紹介し、それらを使ってつめたりつないだりすることを知らせる。児童の様子を見守り、必要に応じてつめることを援助する。
	○　できた形から発想し、並べたりつないだりしながら思いのままにつくる。 	・発想を広げるため、試す時間を十分にとる。 ・つめたりつないだりしたものから発想したものをつくりだすことを提案し、自分なりのイメージをもつようにする。 ・発想が広がらない子には、つめたものを見ながら思いを聞き取ったり、好きな動物などの話をしたりしながら一緒に見立て遊びを楽しみ、会話を通してイメージをわかせるようにする。
	○　つくっているうちに思い付いたことを取り入れたり、他の材料の利用の仕方を工夫したりしながら、発想したものをつくりだす。	・シールやモールなどの材料を提示し、使ってみるよう声かけをする。 ・形や色の変化に気付かせるように話したり、触った感じを言葉で表現させたりし、活動が活発になるよう支援する。
	○　気に入った場所に置いたりつり下げたりして楽しみ、互いの工夫したところやよさを認め合う。	・つくりだしたものを手に取って見たり、友達の作品を自由に見て回ったりして楽しむ鑑賞の時間を十分にとる。

8　指導のポイント

○　言語活動の充実

思いをふくらませる活動を十分に確保し、児童の思いを聞き取ったり見立て遊びをしたりして活発に会話をすることにより、自分なりのイメージをもちやすくさせる。また、活動途中に友達の表現を紹介したり鑑賞活動を取り入れたりすることにより、材料の形や色を基に発想したものをつくりだす能力の育成を図る。

○　鑑賞と表現の一体化

作品を気に入った場所に飾り、光の中で変化する材料の面白さを感じ取るなど、鑑賞活動を工夫することで、作品への親しみをより強く感じられるようにする。

第２学年

１　題材名　『シカさんみたよ』　＜Ａ表現(2)・Ｂ鑑賞＞

２　題材について

造形活動は驚きや感動の体験によって心を揺り動かされながら行うことが大切である。特に自然や動物との出会いは驚きと感動に満ちている。天然記念物でもある奈良のシカは間近で触れ合うことができる。この体験を感動あふれる造形活動につなげていきたい。

３　目　標

○　進んで見たり感じたりしたことから、自分の思いを大切にしてつくりだす喜びを味わう。
○　豊かな発想をして、イメージをもとに感覚や技能を働かせながら造形活動を楽しむ。
○　自分や友達の作品の面白さや楽しさを感じる。

４　共通事項

ア　自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。

シカの形や色をおおまかにとらえ、シカとの触れ合いから得た直感的な感覚を大切にして表現する。

イ　形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

シカの印象を基に、自分のイメージをもち、楽しかったことなど記憶に強く残ったことを自由に造形活動に取り入れる。

５　指導計画（全５時間）

（1）シカと触れ合う。(校外学習)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間
（2）シカのイメージをふくらませる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間
（3）絵に表す。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２時間
（4）作品を壁面に掲示し、互いに鑑賞する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

６　準備物

児　童：たんけんノート、筆記用具、水彩絵の具、はさみ
指導者：クラフト紙、共同絵の具、筆、刷毛、画びょう

７　指導の展開

時間	活動の流れ	指導上の留意点
1 校外学習	○　シカと触れ合う。 ・たんけんノートにシカの印象や特徴を文章や簡単な絵でかく。	・シカに近づくときの安全に配慮する。 ・シカの形や色、動きなどを観察するよう助言する。

－ 図13 －

1	○　シカのイメージをふくらませる。 ・たんけんノートの内容を発表し合う。 からだに白いてんてんが あったよ！ 体はぼくよりもっと大きかったよ！	・自分のイメージを大切にさせる。 ・それぞれの発表の中で気付いたことを参考に、さらにイメージをふくらませることができるようにする。
2	○　シカを絵に表す。 ・イメージに合う色を選ぶ。 ・クラフト紙（全紙）に水彩絵の具でかく。 ・シカの各部分を着色する。 足はとっても細かったよ。 もっと明るい感じの色にしたいなあ…	・適切な活動場所を確保する。 ・形や色の正確さにこだわらず、自分が受けた印象を大切にしてかかせる。 ・自分の感じた大きさのイメージを大切にするよう助言する。 ・茶色系の絵の具は数種類用意しておく。
1	○　壁面に掲示して鑑賞する。 ・壁面に掲示し、みんなで見ることができるようにする。 ・互いに作品を見ながら、お気に入りのシカを発表し合う。	・「友達」「公園の木々」などをつくるよう声かけする。 ・シカに名前をつけさせる。 ・すべての作品を取り上げるよう配慮する。

8　指導のポイント

○　校外学習との関連

校外学習における自然や動物との出会いは、児童にとって驚きと感動に満ちており、心の中に強いイメージとして焼き付けられる。このように校外学習はイメージを基にした造形活動の絶好の機会である。絵に表すときには、必要に応じて写真やビデオ、図鑑などを用意しておくとよい。しかし細部や写実性にこだわるのではなく、自分の体よりも大きいシカを元気よく大胆にかかせたい。さらに、粘土などの立体造形として取り組むことも考えられる。

第３学年

１　題材名『スキ　すぎ　大スキ！』＜Ａ表現(1)・Ｂ鑑賞＞

２　題材について

奈良県特産の吉野杉を使い、材料との豊かな出会いの場とする。杉の美しい木目、手触り、香りを全身の感覚を働かせて味わい、そこから発想し得たイメージを、木材を切ったり組み合わせたりして表現させるようにする。

楽しく木材をのこぎりで切ったり、接着剤や釘を使って組み合わせたりするなど木工用具の扱いに慣れさせるとともに、安全で正しい道具の使い方を身に付けさせるようにする。そして、のこぎりを使って木を切る活動を通して木材の形の変化を楽しんだり、つくりながら次々と出てくる新たなイメージをふくらませたりしながら自由に表現させるようにする。

作品の展示の仕方を工夫し、互いに鑑賞し、よさを感じ取る場をつくる。感じたことを話したり、友達の思いを聞いたりするなど、言語によるコミュニケーションを重視し、互いに認め合うことで表現する喜びを感じさせ表現意欲を高めていく。

３　目　標

○　素材のよさを体感しながら自由に発想し､木を切ったり組み合わせたりする活動を楽しむ。
○　素材から得たイメージをもとに思いを広げ、表し方を工夫する。
○　作品から感じたことを話したり、思いを聞いたりし、よさや面白さを感じ取る。

４　共通事項

ア　自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること

素材に触れ、色・形・質感・におい・音などから特徴を感じ、また、切ったり組み合わせたりして木の形の変化を楽しむ。

イ　形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

感じたことから想像し、切ったり組み合わせたりして木の変化から感じたことを想像し、自分なりのイメージをふくらませる。

５　指導計画（全６時間）

（１）のこぎりで杉材を自由な形・大きさに切る。・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間
（２）杉から発想したイメージを、切ったり組み合わせたりして表す。・・・・・・４時間
（３）互いに作品を鑑賞し合う。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

６　準備物

児　童：軍手、木工用接着剤
指導者：吉野杉の木切れ、のこぎり、金づち、釘、麻ひも、たこ糸、やすり

－ 図15 －

7　指導の展開

時間	活動の流れ	指導上の留意点
1	○　木材のよさを知る。 ・身近な木造建築物などを見る。 ・吉野杉にふれる。 ・手にとって自由に遊ぶ。 ○　のこぎりで木を切り、その手ごたえを感じ、楽しむ。 ○　感じたことを発表する。 いい匂い。気持ちいい手触り。	・身近にある寺や神社などを例に取り上げる。 ・手や体全体の感覚を働かせながら、自由に遊ぶことで、イメージを膨らませる。 ・のこぎりの安全な使い方を知らせる。
4	○　杉から発想したイメージを表す。 ・のこぎりで切ったり、釘や接着剤等で組み合わせたりする。 ・一人でつくったり、友達と協力したりして、自由に活動する。 どんどん大きくしよう。 面白いもようがあるよ。 かっこいい。いっしょにしよう。 くっつけてもいい？	・金づちの安全な使い方を知らせる。 ・切ったり組み合わせたりすることで形などの変化に気付き、さらにイメージをふくらませるよう言葉がけをする。 ・発想しにくい児童には、友達と一緒にするよう働きかけるなど、イメージが広がるようアドバイスする。
1	○　つくったものを鑑賞する。 ・展示や紹介の仕方を考える。 ・作品への思いを話す。 ・質問したり、感想を伝えたりする。	・楽しく鑑賞できるよう、展示方法を工夫する。 ・互いに意見を交わすことで、作品の新たなよさを発見する喜びを感じさせる。

8　指導のポイント

○　他教科等との関連

社会科・道徳（内容　3-(2)自然愛　4-(5)郷土愛）・総合的な学習の時間など他教科等との関連から授業を発展させることができる。奈良県産の吉野杉のすばらしさにふれる体験が、環境への関心や郷土への思いを深めていく。

第４学年

１　題材名『ねがいをとどけるタワー』＜Ａ表現(2)・Ｂ鑑賞＞

２　題材について

児童は、手に力をいっぱいに込め、粘土を自由に形づくる活動が大好きである。そこで、紙粘土を使い、その手触りを楽しみ、粘土の可塑性を生かして自分の思いを自由に表現させたいと考えた。そこで、地域にある五重塔をはじめ様々な材質で作られたタワー（塔）を鑑賞し、それらに込められた人々の願いや思いを想像する活動を通して、自分なりのタワーのイメージを広げるようにする。絵画とは違った、様々な方向から楽しめる立体の表現の特徴を生かし、自分のイメージを粘土を使ってタワーに表現する。児童が、活動を通して自分のイメージを十分に広げられるよう学習活動を設定した。

３　目　標

○　紙粘土の手触りを感じ、タワーづくりを楽しむ。
○　自分なりに発想したタワーのイメージを基に、材料を工夫し表し方を考えて表現する。
○　つくったタワーに名前をつけ、場所を工夫して展示し、鑑賞し合う。

４　共通事項

ア　自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること

粘土をのばしたりくっつけたりすることを通して粘土の感触を楽しみ、自由に変形できる特徴を自分なりにとらえる。

イ　形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと

粘土の感触や特徴を基に感じたことを自分のタワーのイメージに取り入れていく。くっつけたり、へこませたりするなど変化の多様性を活用し、自分のイメージに近づける。

５　指導計画（全５時間）

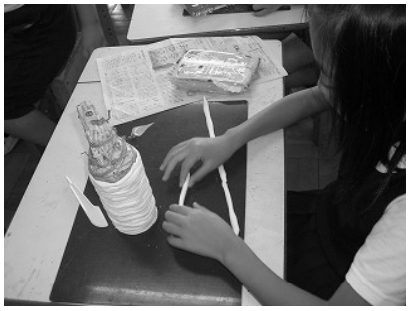
（１）タワーを鑑賞し、発想したイメージを絵や言葉で表す。・・・・・・・・・・・・・・１時間
（２）発想したタワーのイメージを紙粘土で表す。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３時間
（３）作品に名前をつけ、飾りたい場所を見付け展示し、互いに鑑賞し合う。・・・・・１時間

６　準備物

児　童：粘土板、ペットボトル、わりばし、でんぷんのり、水彩絵の具、古新聞
指導者：紙粘土、シュレッダーの紙くず、ビー玉、おはじき、つまようじ、麻ひも、透明ニス、刷毛

７　指導の展開

時間	活動の流れ	指導上の留意点
1	○　様々なタワー（塔）を見る。	・身近にある法隆寺、法輪寺や遠足で見た興

	・色々なタワーが様々な人々の願いや思いを込めてつくられたことを知る。 ○　「自分の願いを届けるタワー 」をイメージし、言葉や絵で表す。	福寺の五重塔、万博公園の太陽の塔等を提示する。また、サグラダ・ファミリア、アンコール・ワット等様々な国のタワーも鑑賞させる。 ・どんな思いや願いを込めて人々がタワーをつくったかを想像させる。 ・言葉や簡単なスケッチで自分のタワーのイメージを具体化させる。
3	○　タワーをイメージしながら、ペットボトルでタワーの土台をつくる。 ○　タワーを紙粘土で表す。 ・ひもづくりで土台をつくる。 ・必要に応じて絵の具やビー玉、おはじき、つまようじなども使う。 ○　仕上げにニスを塗る。	・シュレッダーの紙くずに水で溶いた糊を混ぜペットボトルに詰め込むことで安定した土台をつくるよう助言する。 ・ひもづくりで積み上げる方法を知らせ、崩れないようしっかり紙粘土をつけるよう助言する。 ・つくりながら、初めのイメージが変わってもよいことを知らせ、出てきたイメージを大切にさせる。 
1	○　つくったものを鑑賞する。 ・名前をつけ、飾りたい場所を見付けて展示する。 ・互いに感想を伝え合う。	・作品に込めた思いが感じられる名前を考えさせる。 ・タワーに込められた作者の思いを感じ、意見を交流させる。

8　指導のポイント

○　表現と鑑賞の一体化

身近にある法隆寺の五重塔をはじめ､地域の様々な塔や諸外国のタワーを鑑賞することで、表現の多様性に気付き、自分だけのタワーのイメージをふくらませるようにさせる。

また、地域にある塔を鑑賞し、タワーをつくる活動を通して地域の文化に目を向け、それらを大切にしていく心をはぐくむようにする。

第５学年

１　題材名　　『ぬくもりを感じる灯(あか)り』　＜Ａ表現(2)・Ｂ鑑賞＞

２　題材について

私たちが日常目にする照明は、色彩豊かな明るいものが多い。その中で、奈良の伝統行事「春日万灯籠」や「燈花会」等に見られるほのかな灯りは、どこか見る人にぬくもりを感じさせ、心をなごませてくれる。人工素材に囲まれた日常生活の中で、自然の素材による自分のお気に入りの空間を演出する灯りづくりは、児童にとって自分と向き合う心地よい時間になるのではと考える。

木目が粗く加工し易い杉材の性質を生かし、和紙や自然素材などをとりまぜ自分らしい灯りを工夫させたい。和紙から漏れる光の色と、杉材などによる遮光で浮かび上がるシルエットの組合せの面白さなど、自分の好きなテーマをもとに、それぞれの感じるぬくもりを表現させたい。

３　目　標

○　感覚を生かし、進んで自分のイメージに合う灯りをつくろうとする。
○　素材の特性を生かし、糸のこぎりなどを活用し工夫してつくる。
○　作品を飾る空間の演出を考えたり、互いの作品のよさを認め合ったりする。

４　共通事項

ア　自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。

透かし模様を切り抜いたり、和紙を貼ったりするなどの活動を通して、ぬくもりのある光と影の組合せを感じとる。

イ　形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

素材のもつ質感や組合せをもとに、ぬくもりを感じる形や色などについて、言葉や絵などで交流しながらより自分らしいイメージをもつ。

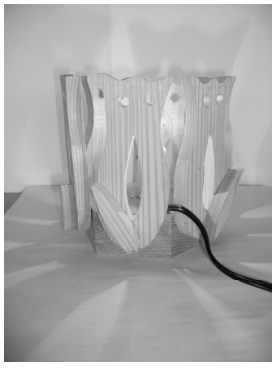
５　指導計画　（全９時間）

（１）灯りについて、イメージをもつ。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間
（２）杉材を使って木枠をつくり、焼き板に仕上げる。・・・・・・・・・・・・・・・・４時間
（３）和紙などの材料で、季節感のある飾りを工夫する。・・・・・・・・・・・・・・・３時間
（４）作品を展示し、それぞれの灯りを鑑賞し合う。・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

６　準備物

児　童：木工用接着剤、古タオル、水彩絵の具、身辺材料、自然素材
指導者：杉材(吉野杉)、障子紙、糸のこぎり、金づちなどの工具類、クランプ（はたがね)、バーナー、参考資料、電気器具セット（電球、ソケット、コード等）

7　指導の展開

時間	活動の流れ	指導上の留意点
1	○　「ぬくもり」についてイメージをもつ。 ・参考作品や写真を鑑賞し、ぬくもりを感じるものについて話し合う。 ・季節感や自然のものを取り入れ、自分のテーマについて考える。	・郷土の行事写真やポスター、参考作品を提示する。 ・言葉や絵などで、互いのアイデアを交流し合うよう助言する。
4	○　杉板で木枠をつくり焼き板に仕上げる。 ・糸のこぎり等で、杉板を切り分けたり、中を切り抜いたりする。 ・つるす・置くなど使い方に合わせて形を組み立てる。 ・バーナーで表面に焼き色をつけ、古タオルでみがく。	・割れにくい木取りの方法や丈夫な組み立て方を助言する。 ・バーナーは指導者が使用する。
3	○　和紙やその他の材料を生かし、灯りの色や影の形を工夫する。  ・木枠に和紙を貼る。 ・その他の材料を使い、テーマに合わせた飾りをつくる。 ○　電球を台に取り付ける。	・和紙への着色や、色紙・葉・色糸などを中に貼りこむ場合は、透過性に注意させる。 ・使う場所に合わせ、「ぬくもり」を感じる形や色を工夫させる。 ・実際に光を灯して、灯りの色や影の形を試すコーナーを用意する。 ・熱が中にこもらないように注意させる。
1	○　作品を展示し、鑑賞し合う。 ・各自のイメージがよく表せているところを認め合ったり、灯りのともる情景を味わったりする。	・作品のテーマと照らし合わせて見るよう助言する。 ・「ぬくもり」について、表現の方法や感じ方の違いを発表するようにさせる。

8　指導のポイント

○　鑑賞と表現の一体化

奈良の伝統行事に見られる灯りの幻想的な世界の鑑賞から入り、一人一人が「ぬくもりを感じる灯り」に対するイメージをつかみ、自分の表現につなぐようにする。また、つくる過程で灯りの色や影の形を何度も試せるコーナーを設置する。杉材は、近くの製材所で用意した板材や取り寄せた吉野杉の端材等を用い、木目や香りなど、自然の形や色などの特徴を充分生かせるようにしたい。

第６学年

１　題材名　『富本憲吉の精神を受け継いで』＜Ａ表現(2)・Ｂ鑑賞＞

２　題材について

人間国宝であり文化勲章も受章した富本憲吉は、安堵町出身のすぐれた陶芸家である。宅地化の進む町内であるが、彼の愛した自然や風景が今もここかしこに名残をとどめている。そんな豊かな環境で育った６年生の子どもたちが、道徳の時間の学習や「富本憲吉記念館」の見学を通して、陶芸家として信念を貫き通した憲吉の生き方に触れる。そして、そこから学んだことを基に一人一人が自分の生き方や信念などをイメージし、図柄に表し、絵付けをした皿をつくる。

富本憲吉記念館提供

３　目　標

○　富本憲吉の信念を貫いた生き方に触れ、作品の鑑賞を通して、制作の意図や郷土の美について感じたり考えたりする。

○　自分の信念や思いを込め図柄を工夫し、絵皿をつくる。

作品①「竹林月夜」

４　共通事項

ア　自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。

美術館等での作品鑑賞を通して、にじみ、かすれ、ぼかしなどの絵付けの筆使いから造形的な特徴をとらえる。

イ　形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

絵柄や文字などを使って表したい自分の思いや生き方のイメージをもつ。

５　指導計画（全７時間）

○　郷土を愛し、陶芸家としての信念を貫き通した富本憲吉の生き方について学ぶ。

（小学道徳「生きる力」奈良県版　日本文教出版　６年生「信じる道をつらぬく」）　（道 徳）

（１）富本憲吉記念館で館長さんの話を聞いたり、作品を鑑賞したりする。・・・・・　２時間

（２）皿を成形する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１時間

（３）自分の信念や思い出を込めた図柄や言葉を考えて下絵をかく。・・・・・・・・・　２時間

（４）絵付けをする。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１時間

（５）焼き上がった作品を鑑賞し合う。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１時間

６　準備物

児　童：古いタオル、墨汁、絵筆、モチーフとなるもの

指導者：作品鑑賞カード、焼成用粘土、タタラ板、引き糸、型紙、ニードル、釉薬、和筆、乾燥棚、習字半紙、画仙紙葉書

7　指導の展開

時間	活動の流れ	指導上の留意点
道徳	○　道徳教材「信じる道をつらぬく」を読みながら、憲吉の生き方や作品に込められた思いについて学習する。	・憲吉の作品や憲吉が描いた安堵町内の風景の写真をプレゼンテーションソフトを使って見せながら、視覚的にも理解を促す。
2	○　「富本憲吉記念館」を見学する。 ・館長さんから憲吉の生き方や展示作品についての話を聞く。 ・館内の作品を鑑賞する。	・鑑賞カードにメモを取りながら見学させる。 ・心に残った作品などをスケッチしながら鑑賞したことを絵や文にまとめさせる。
1	○　皿を成形する。 ・タタラ引きした板状の粘土に型紙をあてニードルで形を切り抜く。	・粘土の固まりからタタラを引いて、児童の粘土板の上に配布する。 ・素焼きをする。
3	○　絵付けのデザインを考える。 ○　陶芸用絵の具で素焼きの皿に絵付けをする。 	・絵手紙の学習で指導してきたことを確認しながら、作品に自分の考えや思いがうまく表現できるように指導する。 ・絵付けの終えた皿に透明になる釉薬をかけさせる。 ・本焼きをする。
1	○　焼き上がった作品を鑑賞し合う。	・鑑賞カードにメモを取りながら聞かせる。

8　指導のポイント

○　鑑賞と表現の一体化

美しいものや崇高なものを尊重し、造形的な創造による豊かな情操を養うようにする。

○　地域の美術館との連携

児童の鑑賞の能力を育てる目的で、施設が提供する教材や教育プログラムを活用したり、学芸員などの専門的な経験や知識を生かしたりして授業をする。

○　道徳との関連

図画工作科の特質や児童の発達段階を考慮して、道徳の時間との関連を考え、適切な指導を行う。高学年の道徳の内容４−(7)「郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ」とかかわって、先人の生き方に学び、つくりだす喜びを味わわせるようにする。

作　成　委　員

熊　野　惠　次	安堵町立安堵小学校	校　　長
西川知惠巳	大和高田市立菅原小学校	教　　頭
鳥　井　惠　子	奈良市立西大寺北小学校	教　　諭
喜　多　京　司	奈良市立富雄南小学校	教　　諭
森　口　裕　美	平群町立平群南小学校	教　　諭
秦　　良　房	奈良県立教育研究所	研究指導主事
吉　村　　茂	奈良県教育委員会事務局学校教育課	係　　長

（作成委員の職名等は平成21年度のものである。）